

松江市 報道提供資料

令和6年1月14日

件名 松江歴史館 館蔵品展「長崎家の籐細工－松江でつづく丁寧な仕事－」の
開催について

内容

松江歴史館では、令和7年(2025)7月18日(金)より館蔵品展「長崎家の籐細工－松江でつづく丁寧な仕事－」を開催します。松江の伝統工芸「松江藩籐細工」を紹介する展覧会です。江戸時代から現代にまで続く「わざ」をお楽しみください。

会 期 令和7年(2025)7月18日(金)～9月15日(月・祝) 毎週月曜休館、祝日の場合翌平日

会 場 松江歴史館 企画展示室

開館時間 9:00～17:00 ※観覧受付は16:30まで

【注目点】

- ・長崎家初代から6代・長崎誠まで歴代の作品が一堂に会します。
- ・約30年前に松江市が寄贈を受けた、80点に及ぶ籐細工を一挙公開する機会となります。
- ・松江藩籐細工の未来を支える、「6代の弟子たち」の作品もご覧いただけます。

【問い合わせ】

文化スポーツ部 松江歴史館 担当：大多和・的野・藤岡・安部

電話：0852-55-5511

館蔵品展 **長崎家の藤細工** —松江でつづく丁寧な仕事—

【会期】 2025 年 7 月 18 日(金)～9 月15 日(月・祝)

【会場】 松江歴史館 企画展示室

松江藩の藤細工は、文政期(1818～1829)頃にはすでに下級武士が内職として煙管入を製作していたと伝えられています。現代に藤細工の技法を伝える長崎家の藤細工は、江戸時代末期、松江藩の料理方であった長崎仲蔵が、江戸の松江藩下屋敷で藤細工を作ったことが始まりとされています。2代福太郎が長崎家の秘伝の技とされる六弁の花模様が並んだ編み方「花結び」を考案するなど、各代で時代に合わせた藤細工を多く作り続けてきました。

松江藩に伝わる藤細工の技術は、6代長崎誠氏が「松江藩藤細工」として平成 16 年(2004)3 月 31 日に島根県ふるさと工芸品の指定を受け、さらに長崎誠氏の弟子である8代川口淳平氏は令和 6 年(2024)に「松江藩藤細工」として鳥取県伝統工芸士に認定され、現代にもその技を伝えています。本展は、初代長崎仲蔵から現在活躍する長崎誠氏、角宏子氏、川口淳平氏らの作品を展示し、江戸時代から松江で作られ続けてきた藤細工の一端をご紹介します。



3代 森山千代市作

《花結編籠信玄》(当館蔵)



初代 長崎仲蔵作

《極細一楽編煙管入》(当館蔵)



2代 長崎福太郎作

《石畳編炭斗》(当館蔵)

みどころ

①長崎家初代から6代・長崎誠まで
歴代の作品が一堂に会する！

松江の伝統工芸である松江藩藤細工。江戸時代末期の初代から6代・長崎誠まで歴代の技を間近に見ただけです。

②松江歴史館所蔵の藤細工、
一挙公開！

約 30 年前に松江市に寄贈いただいた 80 点に及ぶ松江藩藤細工を一挙にご覧いただけるまたとない機会です。

③松江藩藤細工の次世代、
「6 代の弟子たち」の作品も！

長崎誠の弟子で、これからの松江藩藤細工を支える角宏子・川口淳平・藤田真理・山野孝弘らの作品も紹介。

松江で150年続けられてきた丁寧な手仕事。
長い年月の中で人々の暮らしも時代とともに変わっていきます。
各代の籐細工からは、そんな移り変わる時代も感じられます。



①

① 4代 森山誠一作「弦付色違一楽編果物籠」(当館蔵)

② 5代 長崎藤吉作「土瓶敷 大中小」(当館蔵)

③ 6代 長崎誠作「花結編クラッチバッグ」(当館蔵)



②



③

会期中には、イベントも開催予定です。
くわしくは松江歴史館ホームページにて
随時お知らせいたします。

6代 長崎誠氏



【開館時間】9:00～17:00(展示室への入場は16:30まで)

【休館日】毎週月曜日、祝日は開館し翌平日が休館。ただし8月12日(火)は開館。

【主催】松江歴史館(ホームページ:<https://matsu-reki.jp/>)

【問い合わせ】〒690-0887 島根県松江市殿町279番地

TEL:0852-32-1607(代表) 0852-55-5511(学芸直通)

FAX:0852-32-1611 E-mail:rekishi@city.matsue.lg.jp

展示担当:大多和(おおたわ)、的野(まとの) 広報画像提供等担当:藤岡(ふじおか)、安部(あべ)